

2018年度研究活動 活動テーマ募集一覧

	キーワード	募集対象	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
1	認証	リスク管理者 情報管理部門	認証技術(管理)の未来	IPカメラの高性能化ならびにAI分析技術を組合わせた防犯やマーケティング分野でビジネスモデルが開発されたり、これら最新の画像認識技術が注目されている。 高度化・多様化する認証技術の中で、企業において他社に後れを取らないセキュリティを確立したいことはいまでもない。該テーマにおいては認証技術(管理)の面で費用対効果、これからの技術の進歩を鑑み、利用シーンから新たなビジネスモデルの検討や、どういった技術が有効か、利用検証する。
2	情報セキュリティ	ユーザ企業 情報システム部門 情報セキュリティ管理部門	企業のセキュリティ対策	2020年オリンピック開催、自動運転やヘルスケアデバイスなどIoTの普及に伴う外部からの脅威拡充、働き方改革による社外からの業務システム利用、クラウドサービス活用による企業のシステム環境の変化や従業員の業務形態の変化に伴い、企業にはどのようなセキュリティ対策が必要であるかを提言する。
3	ブロックチェーン	ユーザー企業 IT企画部門の管理者・ 担当者 ユーザー企業 ITインフラ部門の管理者・担当者	ブロックチェーンって いったい何？ どんなことに注意しな ければならない？ 新たなビジネスモデル の探求	近年のFinTechの潮流の中で、大きな話題となった「ブロックチェーン」。 ビットコイン等の仮想通貨や、その基盤技術であるブロックチェーンは、極めて斬新な技術であるものの、なかなか理解されにくく、依然多くの誤解が存在している。また、昨今のコインチェック社事件を踏まえ、課題はないのか認識する必要がある。 何が正しいのかよくわからない人も多いため、まずは理解するところから始め、どんなことに注意して活用すべきか、今後の展望、新たなビジネスモデル例から活用方法を探究する。
4	APIエコノミー(経済圏)	情報システム部門、 事業部門、企画部門	データ流通とAPIが生み出す 新しい経済圏とは	API(Application Programming Interface)を提供する人、APIを利用してサービスを提供する人、提供されたサービスを受取る人の3者間で出来上がる仕組みを「APIエコノミー」と言う。 今後のビジネス展開において、社内外リソースの活用やビジネスサイクルの高速化に対応する手段としてAPIの提供や活用は不可欠になってきている。「APIエコノミー」を創出するために、どのようにAPIを提供するか、APIをどのように活用するかを研究する。
5	性能問題の予兆監視	ユーザー企業 IT企画部門の管理者・ 担当者	性能障害の予兆を把握し対策を打つ「プロアク ティブな性能対策手法」の研究	稼働中のシステムの処理性能が徐々に劣化し、気づかない内に広範囲で性能問題を抱えることがある。 システム性能の悪化は、利用者の満足度低下や業務効率の低下を招く。特にECサイトなどコンシューマと関連性のあるシステムの性能は、会員数や売上高などの経営指標とも強くリンクしている。 稼働中のシステムはなぜ徐々に性能劣化するのか、どのような観点に着目すれば問題の予兆を把握できるのか、近年最も注目される技術のひとつであるプロアクティブな性能対策手法について事例を踏まえて研究する。
6	資産の可視化	ユーザー企業 IT企画部門の管理者・ 担当者 ユーザー企業のITインフラ部門 の管理者・担当者	システム保守における 既存資産の可視化	企業の業務システムは長期に渡って利用されるが、ソースコードの肥大化、ソースコードとドキュメントの乖離、情報の属人化など、さまざまな原因から情報が劣化し保守が困難化することは免れない。 対策としては、既存の資産を見える化して現状の把握を容易にすることが考えられる。 本活動では、どのような情報を見える化することで、困難となっている保守作業を改善できるのか、また自動化を含む実現手段について研究する。
7	人工知能	ユーザー企業 情報システム部門、 情報子会社の企画・研究部門	人工知能の エンタープライズ活用	人工知能時代で、ビジネスをどう進化させるのか。 職場での事務処理の生産性向上や省人化をはじめ、社会に貢献する新サービスの創出など、 検証や適用を通じて、ビジネス変革への活用の提言や実証を進める。
8	データの利活用	情報システム部門 事業部門	企業内・外に存在する データを組み合わせて、 新ビジネスについて考える	IoT技術の発展に伴い、様々な情報が採取できるようになってきている。 そこで、既存の企業内データ、オープンデータや新たに収集できるデータを組み合わせて活用することで、新ビジネスの創出や社会課題の解決などを検討する。
9	深層学習	ユーザー企業 情報システム部門	深層学習の適用の勘所	技術的な注目度が優先しているが、様々なケースでその適用事例が出てきている。適用分野をもとにツールの特徴やその成功例などを分析し、今後適用を検討される方への指針をまとめる。
10	RPA (Robotic Process Automation)	ユーザー企業の 情報システム部門	RPA(Robotic Process Automation) の活用によるIT部門での 効率化と運用に関して	最近、RPA(Robotic Process Automation)を活用して業務の効率化・自動化への取り組みが増えてきている。これは主にプログラミング経験の少ない業務部門スタッフが業務の効率化および自動化を進めるために活用されているケースである。 ご自分の会社等で活用事例があれば是非ともご紹介いただき度。 このRPAの活用事例を研究することによって、IT部門でのあらたな活用分野を見出したり、システムの更なる安全／安定の為の運用改善(自動化)・効率化を進めるための可能性を研究する。
11	物流効率改善	ユーザー企業 物流部門・ システム部門	自動運転/自動搬送技術がもたらす、 省力化、省人化取組	労働力不足の影響に直面している物流業界において、自動化技術の導入は急務であり、国土交通省など、省庁を起点とした取り組みも増えている。 最新技術や導入可能な事例を対象に、自社に成果を持ち帰る研究に取り組んでほしい。
12	クラウド	企画部門	クラウドを利用した 新たなビジネスモデルの探求	世の中には、システム基盤、ストレージ基盤、コラボレーションなどに加えて、マーケティング、CRM、ファイナンスなどお客様のビジネスに直結する便利なクラウドサービス(パブリッククラウド)が数多く存在する。既存のオンプレミスやプライベートクラウドとパブリッククラウドを組合わせて活用することで、より効率的な生産性の高いシステムを実現できるかを検証する。
13	働き方改革	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革へのIT の果たす役割	国の人口減少が進む中で、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題である。 これまでもITは仕事の生産性向上に大きく寄与してきたが、働き方の質を大きく変えることは少ない。働く場所や時間、コミュニケーション方法、デバイスなどの変化に対応した改革が必要になっている。 以前からシンクライアント、UC、テレプレゼンスなどのソリューションが存在するが、現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスを中心とした働き方への見直しが必要である。 技術革新が進むモビリティの面からどのように活用シーンが変化し、そこでITがどのような役割を果たすことができるのかについて提言する。